

## 平成18年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1232
事業コード		事務事業名	三河湾浄化推進事業	
根拠法令等	水質汚濁防止法	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

人と自然が共生する潤いあるまちづくり	環境保全
--------------------	------

事務事業の内容

対象(受益者)	市民全体に
手段	三河湾浄化の啓発をし、事業を推進することにより
想定する成果	適正な水質環境確保し、観光、漁場振興にも資する。

事業の概要

項目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
浄化店頭啓発参加生徒数	67人	65人	70人
啓発グッズ配布数	640個	490個	700個
ｽｽﾞｷ観察会・講演会	141人	32人	500人
ﾌｻﾞ回収(塵含む)	224 t	67 t	200 t

成果指標

成果指標名	啓発人数	渥美湾蒲郡地先海域水質(水産試験場)
成果指標の説明	啓発活動の参加延べ人数 浄化店頭啓発参加生徒数 + 啓発グッズ配布 個数 + ｽｽﾞｷ観察会参加・講演会参加数	COD / 全窒素 / 全燐 (mg/ ) 75%水質値 (全層)

事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	1,270人
	実績	848人	587人	-
成果指標	計画	-	-	8.0/0.6/0.05mg/ 以下
	実績	4.3/0.33/0.042mg/	4.3/0.40/0.050mg/	-
事業費	事業費	2,193	2,531	4,317
	人件費	5,631	3,892	3,945
	(人数)	0.7	0.5	0.5
	合計	7,824	6,423	8,262
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	7,824	6,423	8,262

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	1	蒲郡市地先の海域水質は、環境基準をかるうじて達成しているが、数値は横ばいで大きな改善傾向は見られない。
経済効率性	1	2	2	2	アオサ除去費用が経費の大半を占めるが、打ち上がるものを人力で回収するのは効果が薄い。
事務効率性	2	2	2	2	広く住民の意識向上を図ることが必要であるが、パンフレット等では、問題意識向上は難しい。
必要性	3	3	3	2	観光都市蒲郡にとって、海の景観は最重要の観光資源であり必要性は大きい。
小計	8	9	9	7	
施策への貢献度	2	-	2	-	広い三河湾において蒲郡市の啓発効果を検証するのは難しいが、意識啓発の貢献度は高い。
合計	10	9	11	7	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	A	B	生活廃水で海を汚しているという問題意識はまだまだ薄い中、若い世代を対象とした啓発によって意識改革を継続して進めていく。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
平成18年度より環境課で実施していたアオサ回収委託業務と、土木港湾課で実施していたアオサ運搬等委託業務を全て環境課配当とし、一括土木港湾課に業務委託することとして事務効率化を図った。 また、アオサ堆肥、東京ガスへのバイオマス燃料としての提供を行い埋立処分量の削減を図った。	

今後改善すべき点

平成19年度より、蒲郡まつりに併せて実施していた刈刈観察会を廃止し、市内の小学校の児童を対象に三河湾浄化講演会を新たに実施する。このとき、父母にも参加を呼びかけ啓発対象人数を増やす。
---

平成20年度予算に反映する項目

小学校1校で三河湾浄化講演会を実施する。
----------------------

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

## 平成18年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1233
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	墓地環境整備事業				
根拠法令等	墓地、埋葬等に関する法律		A(法令)	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

人と自然が共生する潤いあるまちづくり	環境衛生
--------------------	------

事務事業の内容

対象（受益者）	市名義地元管理墓地を利用する市民に
手 段	墓地整備費の一部を墓地管理者に市が補助することにより
想定する成果	墓地が適切に管理、運営される。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
補助申請件数	0 件	2 件	—
補助交付額	円	1,064,000円	1,100,000円
補助事業費	円	2,364,445円	2,450,000円

成果指標

成果指標名	補助金交付申請件数	補助率
成果指標の説明	墓地環境整備のための補助金交付申請件数	補助金額 / 補助事業費 × 100

事業の進捗状況 （一般会計 ）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	—	—	—
	実績	0 件	2 件	—
成果指標	計画	—	—	45.0%
	実績	0.0%	45.0%	—
事業費	事業費	0	2,364	1,100
	人件費	1,609	1,557	1,578
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	1,609	3,921	2,678
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	1,609	3,921	2,678

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	16評価	18評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	地元からの施設改善、修繕の要望には応えている。
経済効率性	3	3	2	2	地元墓地管理者に補助することにより、安価で効率的に運営できる。
事務効率性	3	3	2	2	地元墓地管理者からの申請に基づき適切に処理しており、受益者である地元の管理意識の定着につながっている。
必要性	3	3	2	2	市内地元管理墓地79ヶ所の適切な維持のために今後も必要である。
小計	11	11	8	8	
施策への貢献度	2	-	2	-	
合計	13	11	10	8	
達成度等各項目は、0～3点までの4段階					
総合評価	A	A	B	B	市直営墓地が現在無い中で、市内の市名義地元管理墓地が果たす役割は大きく、受益者の意向も加味され環境整備が行なわれており、今後とも、申請に応じて補助金を支出する必要がある。

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
墓地埋葬法上、まず第一に市町村直営の墓地が求められている。今後も、市直営の墓地建設は財政上検討できないので、地元管理墓地の維持のために、補助金制度を継続する必要がある。	

今後改善すべき点

平成20年度予算に反映する項目

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

# 平成18年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1233
事業コード		事務事業名	環境美化事業	
根拠法令等	空き缶等ごみ散乱防止条例	A 法令	B 条例	C 規則 D その他 E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

人と自然が共生する潤いあるまちづくり	廃棄物
--------------------	-----

事務事業の内容

対象(受益者)	市民及び観光客に
手 段	ごみ散乱防止、ごみ減量思想の普及をし、清掃事業等への参加促進、運営などを行なうことによって
想定する成果	街の美化が保持、促進される。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
530運動参加者数(人)	24,190人	34,980人	—————
リマーケット申込者数	1回 327人	1回 269人	—————
生ごみ処理機等補助金申請	78件(95基、506.5千円)	55件(72基、328.2千円)	—————

成果指標

成果指標名	530運動実践活動申請数	生ゴミ処理機の累積補助件数
成果指標の説明	春秋の統一実践活動以外の申請団体件数	生ゴミ処理機の累積補助件数

事業の進捗状況 (一般会計 )

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	—————	—————	—————
	実績	338団体	452団体	—————
成果指標	計画	—————	—————	—————
	実績	1,400件	1,455件	—————
事業費	事業費	3,916	5,345	4,692
	人件費	12,870	12,454	12,622
	(人数)	1.6	1.6	1.6
	合計	16,786	17,799	17,314
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	741		
	一般財源	16,045	17,799	17,314

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	16評価	18評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	530運動参加者数は、年間延べ3万人前後と市民の約4割に達している。
経済効率性	2	2	2	2	
事務効率性	2	2	2	2	
必要性	3	3	3	3	ごみ散乱防止、ごみ減量は緊急の課題である。地球温暖化防止対策にも必要である。
小計	9	9	9	9	
施策への貢献度	3	-	2	-	530統一実践活動、まちなみクリーンアップ作戦などの散乱ごみ収集活動及びフリーマーケットなどのイベントの実施により多くの市民の参加を得ている。
合計	12	9	11	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	ごみ散乱防止、ごみ減量を通しての環境美化は、市民生活に直結する最重要課題である。地球温暖化が叫ばれる中、試行錯誤しながら市民との協働を検討していきたい。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
平成18年度から、家庭から出る粗大ごみ等を蒲郡市クリーンセンターや一色不燃物最終処分場へ運ぶための軽トラックの無料貸出事業を実施（2台 平日及び日曜日貸出、18年度 420回の利用実績。）	

今後改善すべき点

市民の協力なくしては、街の美化、ごみ減量は進展しない。レジ袋削減の検討、有料ごみ袋制度の検討、クリーンサポーターの意義ある活用方法の検討、530運動の弾力的な改善など、空き缶等ごみ散乱防止条例を生かした施策を縦横に展開していく。
--

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】